

ファール判定器の不具合に関する再発防止策

NHK 杯第 57 回全日本選抜ボウリング選手権大会におけるファール判定器不具合の件を受け、公益財団法人 JAPAN BOWLING（以下、「当団体」という）は、当団体主催大会において、以下の通り再発防止策を策定及び実施し、競技の公平性を保つため万全を期すよう努めます。

1. 大会開催 1 か月前に主管連盟役員立会いのもと、全レーンのファール判定器動作確認を行います。

不具合が認められる場合には、大会までの修理を依頼します。

- （1）動作確認は、ファール判定器のスイッチを入れ直した上で、1 レーン当たり複数回行います。
- （2）不具合が認められない場合でも、大会開催までの間に不具合が発生する可能性もあり、主管連盟は引き続き競技会場から状況の報告を受け、適宜当団体へ報告を行います。
- （3）不具合が認められた場合、主管連盟から競技会場へ修理依頼を行い、その状況を当団体へ報告し、情報共有します。
- （4）不具合が認められたものの大会開催までの間に修理が困難な場合、競技会場から理由書を提出いただきます。主管連盟はファール審判員の配置計画を立案します。

2. 大会当日、毎朝競技開始前に全レーンのファール判定器動作確認を行います。

- （1）不具合が認められた場合、ファール審判員を配置して対応します。
- （2）大会初日時点の状況について、監督会議（選手ミーティング）にて状況報告を行います。
- （3）大会 2 日目以降に不具合が発見された場合、マイクアナウンスにて状況報告を行います。

3. マッチゲームの競技では、試合開始前に審判部長（もしくは審判副部長）がファール判定器の動作確認を行います。ファール判定器による判定と合わせて、ファール審判員を配置し、目視でのファール判定も行います。

2024 年 5 月 29 日

公益財団法人 JAPAN BOWLING